



# 角膜移植がもたらす喜び

～ あなたにもできます 光の贈り物 ～



## 2019 献眼講演会のご案内

献眼いただいた皆様からの角膜を移植することにより、多くの皆様が光を取り戻しています。献眼の重要性、大切さの理解を深め、さらに広めるため、下記のとおり講演会を企画しました。参加費、申込不要です。お待ちしております。

### 記

#### 1 日時

令和元年 11月3日(日) 13:30～

#### 2 場所

長野県長野保健福祉事務所 3階会議室(長野市大字中御所字岡田 98-1)

#### 3 講師

(1) **中島昭司** 氏

**「視力を取り戻した喜び」**

(2) あおやぎ眼科 院長 **青柳康二** 氏

**「角膜移植の実際」**

#### 4 主催

長野県アイバンク・臓器移植推進協会

ライオンズクラブ国際協会 334-E 地区

長野県

#### 5 問い合わせ先

長野県アイバンク・臓器移植推進協会(〒380-0928 長野市若里 7-1-5)

電話 026-226-1516 メール nagano.eyebank@zb.wakwak.com

#### 6 その他

駐車場はないので、公共交通機関を利用しておいでください。

講演に先立ち、啓発映像「ヒカリ」を上演します。

## アイバンク活動の歴史

人は五感のうち、視覚87%、聴覚7%の割合で外部の情報を脳に伝えており、盲目ということは、人が生きていくうえで大きな困難を伴うこととなります。このため、古くから目の治療法が試みられ、水晶体と角膜が原因の失明は移植により治療できるようになりました。このうち水晶体については、人工レンズで対象可能ですが、角膜については、当分の間は人から人への移植しか方法がないため、死去された方からの眼球の提供により、移植治療が行われています。

1925年のライオンズクラブ国際大会でヘレン・ケラー氏が、「暗闇と戦う盲人のための騎士になってください」と訴えたことにより、角膜移植はライオンズクラブの奉仕活動のひとつとなりました。そして1944年ニューヨークに世界初のアイバンクが設立され、活動は全米に広がり、1956年には日本にも伝わりました。

日本においては、1957年岩手医科大学の今泉亀徹教授による角膜移植手術が刑法に触れるのではないかとの論議がきっかけとなり、翌年「角膜移植に関する法律」が公布され、1963年に慶応義塾・順天堂両大学病院内にてアイバンクがスタートしました。以後、全国で設立の動きが始まりました。

現在、全国に54のアイバンクがあり、年間約1500眼の眼球を医療機関にあっせんしています。これらの眼球あっせんの仕事は、眼球摘出医、アイバンクスタッフ以外に、ライオンズクラブ、種々の団体又は個人的に御協力いただいている方々の献身的な御尽力によって成り立っています。

## 献眼登録

お申し込みは、ライオンズクラブ又はアイバンクにご連絡ください。

**長野県アイバンク・臓器移植推進協会**

〒380-0928 長野市若里7-1-5

TEL 026-226-1516 FAX 026-226-1636

